

## クレ読み課題について

### はじめに

五線紙には五本の平行の線が書かれているのみですが、ト音記号やヘ音記号、ハ音記号（＝クレ）を用いることで五線の各場所の音高が明らかとなり、記される音符が何の音なのかが明らかになります。五線は**譜表**となります。

私たちは、ト音記号を用いた「高音部譜表」やヘ音記号を用いた「低音部譜表」だけでなく、様々な音部記号が用いた譜表を読めるようになる必要があり、その訓練のための課題が「クレ読み課題」です。

クレ読みの能力が向上することで、より正確かつ早く読譜をすることが可能になり、スコアリーディングなどの応用へとつながります。

### 課題の実施について

課題実施の方法は、一般的に次のような流れで行います。

学習者は一定時間、楽譜を見たのち（予見）、音読します。この時音程を付けずに読むのが一般的です。

予見か黙読の前に、テンポの指示が与えられることがあります。

予見の時間は、曲の長さや難易度によって、数10秒から2、3分程度を目安に設定します。

音読の際は、一定のテンポを維持するように留意しなければなりません。

譜表の種類は以下の7種類です。（黒い音符は全て同じ音高のCの音を示しています。）

**高音部譜表**、**低音部譜表**は一般的に使用されており、必ず習得する必要があります。

続いて重要なのが、ハ音記号を用いた、**ソプラノ譜表**、**アルト譜表**、そして**テノール譜表**です。



さらに上級として**メゾソプラノ譜表**、ヘ音記号を用いた**バリトン譜表**を学ぶ、というのが通常の進め方となります。



### 代表的な課題集

GEORGES DANDELLOT : MANUEL PRATIQUE pour l'études des clés (Eschig)

代表的なクレ読み課題集です。7種類の譜表の読譜を学ぶことができます。旧版と新版があり、旧版は現在もよく用いられていますが、新版では実作品の譜例が多数用いられています。